

目的 日本は世界の長寿口の仲間入しているが現況は老若男女を問わず非常に寝たきり病人が多くなっている。寝たきり病人でも色々の型がある。例えば寝ながら手足の運動を必要とする者又首の運動を必要とする者もいる。従つてそれぞれの目的に合う寝巻が必要と痛感する。過日発表したオニ報はあくまでも寝たきりで自分で体位を動かす事の出来ない病人を対象として発表したものであるが今回は寝たきりで手足の運動の出来ない又必要とする病人のため特に被服の素材 装飾 精神面から受ける色彩 寝ながらの運動が可能であることをオニ条件として試作研究したものである。

方法 ①身丈を膝下15cm位にして足が自由に動き運動が可能であること。(その際足の冷える病人)(血圧 循環器系統の病人)にレゾグオーマを着用させる。  
②足を動かせば裾の乱れを生じるので取はずし出来る股下止めをつけ後裾中央に中側を向けて釦をつけ前身頃裾に穴かバリをして必要に應じ釦止めをし着用する  
③着用方法はオニ報を参考としレゾグオーマを履かせ股下釦を止める

結果 寝たきり病人は特に皮膚のマツサージが必要である。従来寝巻は和服式の場合運動により裾の乱れを生じ洋服式パジヤマは股下足中が広くゆるみに余裕があれば衰弱気味の病人の足にまつわり足を動かすのに負担が大きい。その点を特に考慮し病人が安静に療養生活を送れる様配慮デザイン構成したものである。従つて病人に心身共に負担が少なく寝ながら足を動かすことが出来るので病人家族に好評を得た。医師看護婦の方々からも着用させることが楽で合理的又病人が着心地よく体に負担が少ないと好評である。